

# 第 413 回 大阪大学臨床栄養研究会 (CNC)

※本研究会は医学系研究科 単位認定セミナーです

日時：令和 6 年 5 月 13 日 (月) 18:00～

場所：大阪大学医学部講義棟 2 階 B 講堂 (吹田市山田丘 2-2)

Zoom によるオンライン同時開催

※Web による参加方法は別紙をご確認ください

「間接熱量計を活用した栄養管理 ～急性期から慢性期まで～」

大阪大学医学部附属病院 栄養マネジメント部 森田隆介 先生  
大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 清水健太郎 先生

間接熱量測定とはエネルギー消費量を実測する測定法の一つであり、専用の機器にて酸素消費量( $VO_2$ )と二酸化炭素産生量( $VCO_2$ )を測定することで、安静時エネルギー消費量(REE)と呼吸商(RQ)を正確かつリアルタイムに算出することが可能である。

通常、必要エネルギー量の算出については Harris-Benedict の式や標準体重を用いた簡易式を使用することが一般的ではあるが、敗血症や熱傷、慢性呼吸不全や神経性食思不振症などエネルギー代謝の変動の予測がつきにくい様々な病態の場合において、正確に算出することは困難である。このような場合には間接熱量計を用いて測定することが、各種ガイドラインでも推奨されている。しかしながら実際に REE 測定を行った症例についての報告は少数である。

当院では NST 活動の一環として管理栄養士が間接熱量計で患者の REE 測定を行い、適切な投与エネルギー量を算出し、その後の投与栄養量の提案に活かしている。例えば、熱傷は、侵襲に応じて簡易式では 25~30kcal/kg であるが、測定すると 3500kcal/kg を超える時期もあった。体重 20kg 台の BMI が 10 を切るような極度の低栄養症例ではリフィーディング症候群予防として初期は 5~10kcal/kg で 4~7 日以上かけて徐々に増加させることが推奨されている。しかし、実際の症例で測定すると 500kcal/日を超えており、少量のエネルギー投与を継続することによる低栄養障害増悪の可能性があった。このように症例毎に REE を測定することは栄養管理方針を決めるために有用であった。本発表では、一般病棟の慢性期の症例から救命領域の重症症例まで多種多様な栄養アセスメントについて報告する。

世話人：栄養管理室 長井 直子 室長  
E-Mail：nagaink@hosp.med.osaka-u.ac.jp

次回、第 414 回 CNC は、薬剤部 渡邊 梓先生のお世話で令和 6 年 8 月 19 日 (月) 開催予定です。

## オンラインによる参加方法について

今回は、Zoom を使用いたします。

参加ご希望の方は、下記メールアドレスに ご所属・お名前・ご連絡先メールアドレスをお知らせください。追って、参加方法についてのご案内お送りいたします。

- 申し込み先：[jimu@endmet.med.osaka-u.ac.jp](mailto:jimu@endmet.med.osaka-u.ac.jp)

大阪大学大学院医学系研究科

内分泌・代謝内科学 企画室 宛て

- 申込締切：令和 6 年 5 月 8 日（水）16：00 まで

※学生の方へ

オンラインで実施する研究会における出席票の司会者確認印は指導教員印で良いものとされています。